

科目名称	解剖生理学	学年学期	単位数	時間数
		1 学年前期	1	30
担当教員	八木 草彦	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (医師) <input type="checkbox"/> 無	

【1】 授業概要

既習科目ではあるが、再度理解を深め、疾病の成り立ちと回復の促進へ繋ぐ科目として設定した。人間が生きるためにバランスよく営まれている生命維持との関連や身体反応の出現のメカニズムの基礎を理解する。

【2】 学習目標

1. 人体を形成する基本単位(細胞・組織・器官)について理解する。
2. 各組織の構成要素、組織の構成・種類について理解する。
3. 各器官の生理的役割を理解する。

【3】 第2看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間を統合された存在として多角的に捉えることができる。
- 2. 人間の生命、人間としての尊厳及び権利を尊重した判断および行動をすることができる。
- 3. 人々の多様な価値観を認識して、専門職業人としての共感的態度および倫理に基づいた看護実践をすることができる。
- 4. 看護の対象となる人々の健康状態を判断し、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。
- 5. 保健・医療・福祉チームの一員として多職種の連携・協働を図り調整的役割を果たすことができる。
- 6. 松山市および愛媛県周辺の地域医療への理解を深め、地域の人々の生活を尊重・支援することができる。
- 7. 自己の資質向上のため、看護に対する探究心・向上心を持ち、主体的に学び続けることができる。

【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	解剖生理学を学ぶための基礎知識	講義
2	栄養の消化と吸収 1	講義
3	栄養の消化と吸収 2	講義
4	内臓機能の調節 1	講義
5	呼吸と血液の働き	講義
6	血液の循環とその調整 1	講義
7	身体機能の防御と適応体表からみた人体の構造	講義
8	血液の循環とその調整 2	講義
9	身体の支持と運動	講義
10	情報の受容と処理 1	講義
11	内臓機能の調節 2	講義
12	生殖・発生と老化の仕組み	講義
13	情報の受容と処理 2	講義
14	情報の受容と処理 3	講義
15	体液の調整と尿の生成 生殖・発生と老化のしくみ	講義
16	筆記試験・まとめ	講義

【5】 評価方法

筆記試験で評価する。

【6】 教科書

坂井建雄:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学(第12版) 医学書院 2026 (電子版)

【7】 参考書

参考書は指定しない。

【8】 受講生へのメッセージ